

学生の修学、進路選択および心身の健康等に係る支援

本項の前段として、後述する各種支援の基軸としての担任制度（以下「当制度」という）について、主に当制度の修学支援と学生生活支援への役割について述べる。

担任教員（各ゼミの担当教員やアドバイザー教員、短期大学では、クラス担任）が学生と日々のコミュニケーションのなかで、学生の状況に応じて細やかに対応している。当制度の機能の一つに、毎回の授業への出席状況把握に基づき、一定程度欠席している学生に対しての担任教員からのアプローチがある。担任教員が早期に学生の状態（例えば学修状況、学生生活における不安、心身の状態、進路の悩み、学内外のトラブルなど）を把握し、指導、助言などの対応を行うとともに、その問題の大きさや質に応じて、各学生支援関連部署が協働して当該学生の支援にあたる体制をとっている。

当制度の実効性を確保するツールとして学生の学修習得状況や生活状況を蓄積するシステム（スチューデントプロフィール）を学内に構築しており、全教員、関連部署職員が全学生の状況を共有でき、複合的、多面的に対応できる環境が整えられている。これは全学的な学生支援の推進、取組みに有効に機能している。

当制度は主に学生支援課が教務課との連携を保ちつつ運用面を支え、学生部長を委員長とする学生支援委員会（短期大学では、学生委員会や科会において）が「担任制度が適切に機能しているか」を定期的に点検・評価し、継続的に改善を行っている。

また、各署のさまざまな支援活動（例えば、奨学金面接、学生相談室カウンセラーによる面談、留学生や障害学生への支援・配慮、健康指導、進路相談、履修相談、基礎学力養成、授業アンケート、卒業生アンケートなど）を通して、学生のニーズや思いを含め情報を把握し、支援活動に反映している。すべての学生が「自主自立」を踏まえたうえで、それぞれにとって、将来に資する充実した学生生活を送るための実効性ある効果的な学生支援の実践に努めている。

学生の支援は広範囲にわたるとともに、複数の部署が協働してあたっているケースが多くある。ここでは本学の支援体制について概略的に説明せざるを得ない点があることをお断りしておく。本学の支援体制について、以下学生生活支援、修学支援、留学生支援、心身の健康等に係る支援、障害者支援、進路選択支援の順で説明する。

○学生生活支援

学生支援委員会（短期大学では、学生委員会）と学生支援課は、経済的な支援や生活面を含め学生生活全般において支援を行う。

経済面の支援では、学内の奨学金として「学校法人駒澤学園奨学金」（年間授業料の半額以内を給付）および「在学生スカラシップ制度」（年間授業料の半額減免）や「スカラシップ制度（新入生）」が設置され、学外の奨学金では「高等教育の修学支援新制度（授業料等

減免と給付型奨学金) および「独立行政法人日本学生支援機構奨学金 (JASSO貸与奨学金)」事務を取扱う。

生活面での支援の一つに住環境のサポートがあり、親元を離れて生活する学生のために、提携不動産会社と協力、連携し、専用寮を始めとして、安全・安心を基本に、学生個々の活動、ニーズに応じた住居を紹介している。また、「KomaJo学生生活支援プログラム」を企画し、提供している。これは、「わたくしを磨き、ひとを支える」をモットーに、学生たちが大学生活を通じて、自立した女性の第一歩として、自分を成長させる楽しさを知り、人を支える喜びを知ってもらうようにと、開催されるプログラムで幅広い内容を用意している。

2018年度より大学生活という大きく変わった環境に期待とともに不安も感じている新入生に対し、その不安を払拭し、充実した学生生活を送ってもらうためのツールの一つとして、学生生活の流れや、必要な手続き、学生生活サポートツール、授業、クラブ・同好会、事務部署および問題が起きた際の相談先などをわかりやすく平易に記載した冊子『学生生活ガイド』を作成し、配付とWEB版も導入し学生への利便性を高めている。

○修学支援

修学支援は教務課職員および教員を中心として適宜指導にあたっているが、その範囲は多岐にわたるため、ここでは履修指導の体制について説明する。

なお、2020年度前期は新型コロナウイルス感染症の感染予防・感染拡大防止対策として以下の修学支援を遠隔方式で行った。

まず、4月のオリエンテーションにおいて大学学群・各学部および短期大学の教務委員が学年毎に履修の説明を行っている。そのなかで、併せて学外活動を含む科目については、担当教員が科目の内容説明と履修にあたっての諸注意を行っている。

教務課では、4月上旬と9月下旬の一定期間に、ポータルサイトによるWeb履修を実施し、4月中旬と10月初旬に履修確認変更期間を設け、履修登録の内容を学生自身が確認し、過不足があれば追加と削除を行えるようにしている。特に4年生(短期大学にあつては、2年生)については、「卒業できる履修登録」となるよう、ポータルサイトによる履修登録の段階で卒業要件のエラー内容を確認することができ、卒業要件を満たさず卒業できなくなる学生がいらないよう配慮している。また他の学年についても履修に関する質問を受けた際、学年・学類・学科・学類の特性を踏まえたうえでわかりやすい説明をすることはもとより、単に質問に答えるだけでなく、例えば質問内容に関連した事項の履修ガイドの掲載箇所を一緒に見ながら説明をするなど、次に疑問が湧いた際に自ら解決できるよう指導している。また各学期に、学年ごとに標準修得単位数に満たない学生を網羅した一覧表を作成し、教員による履修指導用資料として大学学群・各学科、短期大学に配付している。

また、教員側の履修支援として、大学では、各学期履修登録期間の昼休みと4時限終了後の40分間、また、教員が「履修相談コーナー」を設け、履修の個別相談を行っている。また、専門ゼミの履修については、2年次に各学類・学科で専門ゼミ説明会を実施している。

このように、本学では教員と教務課職員が協同できめ細かな履修指導を実施している。

その他、修学上の支援部署として 2011 年度に開設された学修支援センターがある。本センターは、総合的な学生支援体制の確立のために、教育課程以外で、広範囲にわたって学生支援を下支えする全学的機関である。基本方針は、入学前から卒業まで一貫して基礎学力の補助指導を行うことである。ただし、学業不振者のみを対象としたものではなく、全学生を対象として、進路実現に向けた基礎学力向上を目標に掲げ、学修成績の底上げをはかる。その結果として、就職筆記試験の合格率向上、国家試験の高い合格率達成を目指す。学修支援事業の柱は以下の 6 点である。

1. 入学前指導(e ラーニング講座、読書・記述指導)
2. 基礎学力養成および定着のための指導(基礎学力テストの実施、個別講座)
3. 資格試験・検定対策(日本語、英検、TOEIC、MOS など)
4. 就職試験対策セミナー(e ラーニング SPI 講座、公務員試験など)
5. 学修および進路ニーズに対応した個別指導(学修相談含む)
6. 教員採用試験の対策講座

○留学生支援

留学生委員会および学生支援課が中心となり、留学生への支援を行っている。毎年、前期に個別面談を行うことで留学生の状況把握に努めている。また、留学生・日本人学生、教職員が参加する新入生歓迎会や留学生を中心に学内で参加希望者を募り、都内近郊の名所を散策する親睦会(遠足)を開催している。卒業後の進路については、進路総合センターが相談に対応している。その他、向学心旺盛であるが経済的に学業の維持が困難な者には授業料の減免を実施している。生活・学習面に関しては、学科主任・学類長や担任との連絡を密にし、指導にあたっている。日常的には、大学館 1 階掲示板と地下 1 階学生ラウンジに留学生のための情報コーナーを設けている。

○心身の健康等に係る支援

< 学生相談室および保健室 >

学生相談室および保健室は、学生の心身両面にわたる支援を行うため、緊密に連携している。学生相談室では、学生生活を送るなかで生じるさまざまな悩みに対応するため、履修、将来、自分の性格や心理的問題、家族や友人との関係、恋愛問題について、広く相談を受け付けている。また、健康診断時に全学生を対象としたメンタルヘルスチェックを実施し、心身の健康に不安を持つ学生の早期発見・早期対応に努めている。専任スタッフとして公認心理師・臨床心理士資格を持つカウンセラー 3 名、そのほかにも各学科・学類の学生相談室担当教員が全面的にバックアップしている。学生相談室担当教員は、相談室の運営・企画に関わるだけでなく、大学生生活の各場面において学生のニーズに応じて柔軟に対応し、マネジメント機能を果たしてい

る。相談内容によっては、学生相談室担当教員がその立場や専門性を生かして対応することもある。受付時間は土日、祝祭日を除く平日の午前9時30分から午後5時30分までである（相談時間は午前10時から午後5時）。学生相談室におけるカウンセリング利用は原則として予約制で、申込は通常、学生相談室カウンターで受け付けている。また、対面での面接形態に加え、学生が自宅からでも相談できるよう、電話による受付・相談体制も整えている。

保健室は、健康上のあらゆる相談、けがなどの応急処置、健康に関する情報提供を行っている。また、必要な場合には医療機関、その他の機関を紹介し、健康に過ごせる学生生活をサポートしている。看護師3名を配置し、月曜日から土曜日まで、開室時間は平日が午前9時から午後5時50分、土曜日が午前9時から午後4時となっている。

両機関とも、学生に対して守秘義務を負うことは当然だが、相談内容によっては、学生の了解を得たうえで、相互に、あるいは学生支援課その他の部署・学外機関とも連携を図っている。

<駒沢学園心理相談センター>

駒沢学園心理相談センターは、地域に開かれた「こころの相談」のための専門機関として相談活動を行っている。センターのスタッフは、公認心理師・臨床心理士の有資格者である7名の教員と受付を担当する1名の職員および非常勤の相談員1名（公認心理師・臨床心理士）から構成されている。当センターは、本学大学院臨床心理学専攻の大学院生の臨床心理実習機関としての役割を担っており、有資格者の教員の指導のもとで、来談者のさまざまなニーズに応じて心理相談や心理検査を行っている。また、年に数回公開セミナーを開催するなどして、地域への貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

○障害者支援

障害者支援については、学生支援課が障害者の在籍状況等の確認を行い、各部署が連携する支援体制を整えている。具体的には次のような手順となる。

1. 健康診断・環境調査書・健康調査票もしくは本人・家族からの申し出により学生支援課が障害の状況を把握する。また、必要に応じて面談を実施する。
2. 入学前（修学中の各種支援要請などの入学事前相談を入学予定者に案内し、受け付けている）もしくは入学後の相談において、学内における学生生活・授業・試験において支援が必要と判断された場合、学生支援課が教務委員会・学生支援委員会（短期大学では、学生委員会）・担当教員・各学科や学類・学生相談室・保健室のそれぞれの責任者と対策会議を開き、合理的配慮に基づく支援を協議する。合理的配慮とは、障害のある学生が、他の学生と平等に教育を受ける権利を確保するために本学が行う個別の必要かつ適当な変更及び調整であり、また本学の体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担とならないものをいう。協議に基づいて出された具体的方策は、各委員会・各学科や学類会議（短期大学にあっては、科会）に連絡して協力を要請する。
3. 医療機関や行政など、学外との連携が必要な場合、当該の外部機関とも協力することでサポート体制をより充実させる。

4. 障害者の進路については、就職の希望がある場合、進路総合センターの相談窓口が障害者対象の求人情報を提供、必要に応じて学生相談室、保健室、外部機関が連携して対応する。
5. 障害学生のニーズに応じる施設の改善と充実を図る。
6. 障害を理由とする差別（正当な理由のない不当な差別的取扱い、合理的配慮の不提供等）に関する紛争の防止又は解決については、学生支援課が対応する。

○進路選択支援

進路選択支援は、進路総合センターと就職委員会（短期大学では、就職対策委員会）が協働して、学生の支援にあたっている。勤労と社会貢献の仕組みを理解し、「働く意欲」を高めるように、社会に近接したより説得力ある情報を適切な時期に提供する支援プログラムを用意し対応している。さらに、きめ細かなマンツーマン対応に加え、就職支援関連科目やゼミを通してのサポート、学修支援センターとの連携、卒業生によるアドバイスなど、さまざまな形で学生一人ひとりの主体的で着実な進路選択のためのバックアップを行っている。

進路総合センターでの個別相談は、対面形式と併せて電話・WEBによる体制も整え、学生が事前に相談予約をする際の選択肢を増やしている。学生との個別面談を重視し、進路の希望や特性を十分に理解したうえで、履歴書・提出書類の添削から進路の悩みまで多岐にわたる支援を行っている。大学、短期大学共に、学生の能力・性格・適性を熟知している担任教員と常に連携しながら、本学の規模の強みを生かして刻々と変化する学生の状況を的確に捉えながら緊密な対応を行っている。また、当センターが主催するガイダンスやセミナーも開催時期や内容に応じて、対面と動画配信（LIVE、VOD）を使い分けて実施している。具体的には、就職活動の準備から活動の方法まで具体的・体系的にプログラムされた「キャリアガイダンス」「就職・インターンシップ対策講座」の実施、加えて、「採用試験対策集中講座」ではグループディスカッションや模擬面接を実践形式で行っており、万全の体制で就職活動のスタートを切ることが可能となっている。また、「マナー講座」では、日常生活の基本的なマナーから、就職後も生かすことのできる常識・マナー・スキルの修得も視野に入れ指導を行っている。恒常的に利用できる設備・施設としては、まず「駒沢女子キャリアナビ」がある。本学の学生専用のシステムで、最新の求人情報をインターネットで検索・閲覧が可能となっている。従来、冊子で配布していた『キャリアハンドブック』は、WEB版を導入し名称も「KOMAJO CAREER SUPPORT」と変更し、学生への利便性を高めた。内容は、就職活動の心構え、スケジュール管理、会社訪問のマナー、手紙や履歴書の書き方などを網羅し、学生の多様な進路に対応したノウハウを学ぶことのできる「進路マニュアル」として大学全学生に提供している。さらに、センター内にある資料室には、学生が自由に使えるコンピューターを6台設置しており、リアルタイムでの資料の検索やエントリーシートの作成も可能となっている。加えて、紙ベースでの求人票・会社案内・採用試験要項も常時閲覧可能な環境を整え、大学院・大学・専門学校への進学希望者についても最新の資料を提供している。また、

留学生向け掲示や障害者向け情報コーナーも設置し、状況に応じた支援の充実を図っている。さらには、就職活動に関わるDVDを視聴できる環境も常時あり、業界研究や筆記試験対策等の進路に関する書籍の貸し出しも行っている。